茶畑 SRtimes

第 248 号「学術研究Ⅱ『中間発表』」号
2026 年 8 月 26 日発行
発行元　宮城県仙台第一高等学校
２学年学術研究委員会

学術研究Ⅱ中間発表　概要

7 月 14 日火曜日に，第１回 SSH 学校公開として，２学年による「学術研究Ⅱ中間発表会」が行われた。生徒たちはゼミごとに分かれ，班ごとに，昨年度から取り組んできた課題研究の活動内容や現時点での成果，今後の研究の展望について発表した。同級生や参観者との活発な質疑応答を通して，班のメンバーだけでは気付かなかった課題や新たな視点を得ることができ，今後の研究をさらに深めるための有意義な機会となった。

各ゼミにおける発表の様子

物理ゼミ

活発に質問が飛び交い，今後の研究を進める上で良い刺激となる発表会であった。壮大なテーマを掲げる班も多く，先行研究を超える成果に到達することは容易ではないように感じられた。その一方で，独創的なアプローチを試みたり，自分たちで収集可能なデータを基に，意義のある結論を導き出そうとしたりする姿が見られた。

化学ゼミ

どの班も，発表する際には，内容を丁寧かつ分かりやすく説明していた。スライドも要点が整理され，見やすく工夫されていた。また，質問に対して的確に答える姿からは，研究に対する熱意と理解の深さが伝わってきた。聴く側も発表に真剣に耳を傾け，積極的に質問するなど，発表者と聴衆の双方に，研究へ真摯に向き合う姿勢が表れた。

生物ゼミ

どの発表でも活発に質問が交わされ，発表者と聴衆が相互に学びを深める有意義な機会となった。一方で，発表時間の調整や研究意義の具体化，発表内容の取捨選択，グラフや表の効果的な活用など，各班に今後改善すべき課題も見られた。質疑応答では，専門性の高い質問が数多く出され，研究に対する関心と理解の深さがうかがえた。

地学ゼミ

質疑応答では，グラフの精度や実験手順の整合性に関する質問や指摘が多く寄せられた。また，研究テーマと結論のずれや，日本語表現の不明瞭さが見られる発表もあった。専門用語についても，説明が不足していたり，班内で使い方が統一されていなかったりしたため，今後は用語や表現を整理し，より正確に伝える工夫が必要である。

数学ゼミ

質疑応答では，参考文献を選んだ理由や仮説を立てた過程を問うなど，前回には見られなかった質問が多く出され，生徒一人一人の考え方の深まりが感じられた。回答にも，これまでに得た知見を生かしたものが多く見られた。一方で，質問者が一部の生徒に偏る場面が見られたため，今後はより多くの生徒が主体的に参加することが望まれる。

情報ゼミ

原稿を見ずに発表できるようになった点には，成長が感じられた。一方で，発表時間の不足や，専門用語が聴き手に十分伝わっていない点には課題が見られた。今後は，語注を加えたり，分かりやすい類語に言い換えたりするなど，聴き手に伝わる発表を意識する必要がある。

国語ゼミ

全員が各班の発表に真剣に耳を傾け，発表者も要点を整理して分かりやすく伝えていた。後半には生徒からの積極的な質問が増え，発表会全体に活気が生まれた。また，次回に向けて，質疑応答をしやすい雰囲気づくりと，一人一人が主体的に参加する姿勢を意識するよう助言があった。

地歴ゼミ

人や地域，建物など，各班が多様なテーマで研究を進めていた。数値によるデータ化が難しく，調査や考察に工夫を要することや，研究対象が広がりすぎることが課題として挙げられる。そのような中でも，各班が工夫を凝らし，テーマの範囲を適切に絞りながら研究を進めてきた様子がうかがえた。

公民ゼミ

全体として，前回の発表と比べて研究の方向性に変化が見られ，実現可能性も高まっていた。また，企業や大学の方々から得た学びを積極的に研究へ生かしており，今後の進展が期待される。質疑応答では，アンケート項目の設定意図に関する質問が多く寄せられた。

英語ゼミ

丁寧で研究目的が明確な班が多く，グラフを活用するなど，スライドにも工夫が見られた。一方で，原稿を見過ぎたために内容が伝わりにくい発表や，質疑応答で質問する生徒が少ない場面もあり，課題が残った。以前にも受けた指摘を踏まえ，様々な視点から考察を深めることが大切であるとの助言をいただいた。

保健体育ゼミ

研究の成果や経過を堂々と発表していたことに加え，質疑応答も活発であった。また，発表者が質問を真摯に受け止め，丁寧に答えようとする姿勢も見られた。一方で，中間レポートを読み上げるだけになっている班や，発表時間を超過する班もあり，伝え方や時間配分には課題が残った。

音楽ゼミ

１班は発表中に実験を実演し，研究内容を具体的にイメージしやすい発表であった。２班は，研究対象を明確に区分して多様な対象を設定しており，複数の視点から考察することで，説得力のある研究になることが期待された。３班は，研究の意図が明確に伝わり，スライドも要点を押さえて見やすくまとめられていた。

家庭ゼミ

食事中の行動が咀嚼回数に与える影響について発表が行われた。研究内容やスライド構成がよく整理されており，質問にも的確に対応していた点が印象的であった。質疑応答では，発表で十分に伝えきれなかった点への指摘や，今後の研究に役立つ意見が交わされた。

災害研究ゼミ

見やすく分かりやすいスライドを用い，企業や大学の方々から学んだことを生かしながら発表していた。質疑応答では，「甘口・辛口カード」を活用した活発なやり取りが見られた。また，得られた結果と自分たちの考察とを明確に区別して伝えることが大切であるとの助言をいただいた。

【編集後記】

今回の中間発表会では，研究内容だけでなく，発表方法や質疑応答にも多くの成長が見られた。一方で，用語の説明，聴き手に伝わる表現など，今後さらに磨くべき課題も明らかになった。発表や助言を通して得た新たな視点を生かし，各班の研究が一層深まっていくことを期待したい。